

津波避難施設を併設した大楽毛消防支署の改築を

日本製紙撤退容認の独断を批判

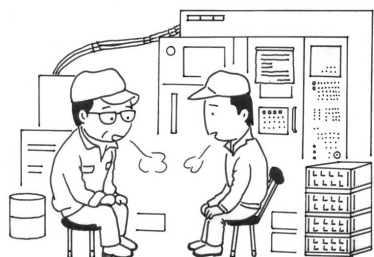
市議会でも村上かずしげ議員は、大楽毛消防支署を消防分団庁舎と合築して、現在地に3階建てで建て直し、大津波の時に避難できるような機能も持たせよと質問し、検討されることになりました。村上議員の3月議会の質問を紹介します。

「日本製紙残して」の

市民の声を裏切った市長

村上議員は、3月1日、市長をはじめとした要請団が日本製紙本社を訪ね、「工場撤退および8月末の撤退時期を市として受け入れる」と表明した経緯について質問。市長は「方針は変わらないという会社の説明を聞いて、自分だけで受け入れを決めた」と答弁。8万人に及ぶ継続署名を独断で裏切ったこととなります。

しかも会社の提案を受け入れても、雇用や跡地利用で前進は一つもなし。市が提案した13の新規事業はやらない、跡地利用は今もって決まっています。「跡地利用について会社が何も言っていない。仮に市に買ってもらったらどうするのか。仮に市に買ってもらいたいと言ってきたら買うのか？」との質問にもまともに答えられません。先の見通しがありません。市が最後のカードを切っています。



まった事実だけが残りしました。

大楽毛消防支署、大楽毛（12）分団の建物はともに老朽化して、建て直しが迫られています。大楽毛支署が建っている場所は、高い建物がなく津波避難困難地域にもなっています。



大楽毛地域の津波避難対策は村上議員が最も力を入れている分野です。

新消防支署を避難施設に

そこで村上議員は、「消防支署と分団を合築すれば、おそらく3階建ての施設になるでしょう。消防支署の現敷地に新築すれば、津波避難施設としても活用できます。早期に建設してほしい」と強く提案しました。

消防長は、「両施設とも老朽化が進み建設が急がれている。しかし、巨大地震の津波浸水想定がまだ発表されておらず、発表された以降に、関係方面と

協議、検討することになる」と答弁しました。北海道の浸水想定が6月にも発表されることになりました。引き続き、建設を強く働きかけていきます。

大楽毛川と阿寒の旭川に

しゅんせつ予算がつく

まわりも団地の北側を流れる大楽毛川、阿寒町旭町を流れる旭川、そしてセツツリ1号川の3つの河川の土砂しゅんせつの予算がつかしました。村上議員の質問に、「大楽毛川は下流の500Mをしゅんせつし、支障木も伐採します。旭川は国道から下流140M、同じく支障木の伐採をします。工事は10月から12月、この工事によって河川の断面積が確保され、洪水防止になります」と、工事内容が説明されました。

阿寒や音別では

市営住宅の建て替え

阿寒町北新町のグリーン団地、音別町川東町の堤団地の替え工事の設計予算が付きましました。村上議員の質問に答え、「3年度に基本設計、4年度に実施設計、



5年度に建設工事」の予定が示され、グリーン団地は6年度から、川東団地は5年度中に、新しい団地への住み替えが始まります。

「住み替えるのに必要な戸数は確保されているか？」との問いには、「グリーン団地では住み替え希望が20戸で、堤団地は16戸」と答弁、新たな団地は、それぞれ26戸と16戸ですから、建設戸数も十分であることも分かりました。村上議員は、他の団地に住み替えたい人など、細かな対応も適切に行うよう求め、市もそうした方向で取り組みと約束しました。

灰も残らない遺骨再焼却

大楽毛北1丁目計画がもちあがった遺骨再焼却施設について、「大楽毛北1丁目への設置は白紙になったと聞いたが、その後の情報はないか」と質問。市は「業務上知りえた民間についての情報については答えられない」と、事実上、そうした施設設置の説明があつたことは認めました。その後の情報については市も持っていないようですが、「引き続ききにアンテナを高くして、情報収集に努めてほしい」と要望しました。